

事務事業名	中心市街地リノベーション事業（台町地区）				担当	建設部 都市計画課 計画係			
政策名	4	「都市づくり」～暮らしやすさアップ！～				☒ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）		
施策名	1	良好な市街地の形成				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☒ 戦新（総合戦略新規事業）		
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略					事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠							☒ 毎年度実施（開始年度 平成29 年度～）		
予算科目	1.一般会計	8.土木費	4.都市計画費	1.都市計画総務費	☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）				
予算科目									
事業概要	総合計画2020-2024の重点プロジェクト〔施策4-1〕良好な市街地の形成に位置付けられ、少子高齢・人口減少社会に対応した魅力あるまちづくりを実現し、まちの活力再生と魅力創出に向け、中心市街地の未整備地域において、まちなか居住のための基盤整備や道路と街並みが調和した沿道整備等のリノベーション事業を推進し、魅力ある市街地の形成を図る。 また、真岡市都市計画マスタープランや真岡市立地適正化計画では、中心市街地に都市機能を集約し、その周辺に居住を誘導する持続可能なコンパクトなまちづくりを推進することから、都市機能誘導区域への誘導施設整備とあわせ、中心部の魅力向上を図るため中心市街地リノベーション事業の推進が必要である。 【経過】 ・平成29年度：地域検討会 ・平成30年度：意向調査・地域検討会 ・平成31年度：地域検討会、中心市街地リノベーション基本構想策定 ・令和2年度：地域検討会、都市計画道路法線検証調査 ・令和3年度：地域検討会 中心市街地リノベーション基本計画基礎調査 ・令和4年度：地域検討会 中心市街地リノベーション事業化優先路線整備検討業務								

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
4年度実績 ・中心市街地リノベーション事業化優先路線整備検討業務 ・地域検討会の開催 5年度計画 ・中心市街地リノベーション基本計画策定業務 ・地域検討会の開催 ・事業化優先路線沿線住民説明会				名称	単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)	
				ア	地域検討会・説明会の開催	回	3	4	5	5	5
				イ	意向調査の実施	件			49		
				ウ	基本構想の策定	-	策定				
				エ	基本計画基礎調査	-		実施	実施	実施	
				オ	基本計画の策定	-					実施
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 中心市街地（駅東の区域）で基盤整備が未完の区域				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称	単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)	
				ア	中心市街地の対象区域	ha	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 低未利用地（空き家、空き地、空き店舗等）の有効利用を図りながら、まちづくりの骨格となる都市計画道路・幹線道路の整備や、生活道路の整備、地区計画等の制度活用による生活環境改善を図り、安全で安心して暮らすことができる良好な市街地を形成することを通じて、中心市街地の魅力を創出し、人口減少社会に対応するコンパクトなまちづくりを推進する。				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称	単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)	
				ア	基本構想の策定	-	策定				
				イ	基本計画基礎調査	-		実施	実施	実施	
				ウ	基本計画の策定	-					実施
				エ							
				オ							
(2) 総事業費の推移				単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	1,914	462	2,684	495	2,090		
	事業費計（A）			千円	1,914	462	2,684	495	2,090		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 真岡市総合計画2020-2024の重点プロジェクト〔施策4-1〕良好な市街地の形成に位置付けられ、住民アンケートでも居住環境の改善要望がある。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 少子高齢・人口減少社会に対応するため、真岡市立地適正化計画を策定し、コンパクトなまちづくりを推進しており、居住誘導区域への居住誘導のためには中心市街地の未整備地域の居住環境の改善が必要である。 また、対象区域を未整備地域に絞り込むことで、良好な都市基盤整備を更に推進する公共性の高い事業である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 中心市街地の対象区域内へ居住誘導を図ることを目的としており適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 地域意向の把握に努めている段階であるが、地域検討会を開催しながら、地域意向に沿った事業方策案を作成するとともに庁内調整を進め、事業の進捗を図る必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる（類似の事務事業名： ） ☒ 類似事業と統合・連携できない（類似の事務事業名：中心市街地リノベーション事業（荒町・田町地区）） ☐ 類似事業はない (評価理由) 中心市街地で基盤整備が未完の区域を対象とする中心市街地リノベーション事業として目的は同一であるが、事業対象エリアや事業手法が異なることから事業を統合することはできない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 必要最小限の事業費で実施している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（☐：目的妥当性 ☒：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☐ 継続 地域協議を進めながら、地域意向に沿った事業方針案を作成していく。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td> </td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 地域調整や庁内調整を図りながら、事業方針案を作成し、事業の進捗を図る。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="width: 10%; text-align: right;">成果</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">維持</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">/</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">低下</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">/</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			/	低下			/
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			/																			
	低下			/																			
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 引き続き、地域との合意形成をよく図ること。																						